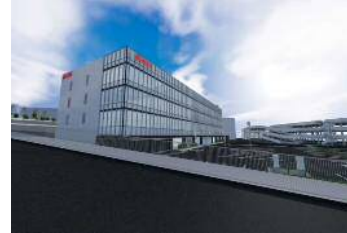


1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	小糸技術センター豊田(仮称)新事務	階数	地上4階
建設地	愛知県豊田市鴻ノ巣町2丁目12-3	構造	S造
用途地域	準工業地域、防火地域指定なし	平均居住人員	400 人
気候区分	5地域	年間使用時間	7,200 時間/年
建物用途	事務所	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2020年3月 予定	評価の実施日	2019年3月20日
敷地面積	4,300 m <sup>2</sup>	作成者	田島 弘三
建築面積	2,385 m <sup>2</sup>	確認日	2019年3月20日
延床面積	9,113 m <sup>2</sup>	確認者	浦島 達也



### 2-1 建築物の環境効率 (BEEランク&チャート)

**BEE = 1.3** ★★★★★

環境品質 G (0-100) vs 環境負荷 L (0-100)

### 2-2 ライフサイクルCO<sub>2</sub>(温暖化影響チャート)

☆☆☆☆☆ (30%)

標準計算: ①参照値 100%, ②建築物の取組み 81%, ③上記+②以外の 81%, ④上記+ 81%

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO<sub>2</sub>排出量の目安で示したものです

### 2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

Q2 サービス性能: 5  
Q1 室内環境: 4  
Q3 室外環境(敷地内): 3  
LR1 エネルギー: 2  
LR2 資源・マテリアル: 3  
LR3 敷地外環境: 2

### 2-4 中項目の評価(バーチャート)

**Q のスコア = 2.9**

#### Q1 室内環境

Q1のスコア= 3.2

#### Q2 サービス性能

Q2のスコア= 3.0

#### Q3 室外環境(敷地内)

Q3のスコア= 2.5

**LR のスコア = 3.4**

#### LR1 エネルギー

LR1のスコア= 3.7

#### LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア= 3.4

#### LR3 敷地外環境

LR3のスコア= 3.1

### 3 重点項目

#### ①地球温暖化への配慮

**3.7**

#### ③敷地内の緑化

**2.0**

外構緑化指数(外構緑化面積/外構面積)

13.1 %

建物緑化指数(建物緑化面積/建築面積)

0.0 %

#### ②資源の有効活用

**3.4**

#### ④地域材の活用

**1.0**

<外装材に使用した地域性のある材料>

なし

<建物の構造材・内装材、外構に使用した地域性のある素材>

なし

各重点項目は、以下の評価項目の得点により算出されています。

①地球温暖化への配慮  
LR-3 1 地球温暖化への配慮

②資源の有効活用  
Q-2 2 耐用性・信頼性、Q-2 3 対応性・更新性  
LR-2 2 非再生性資源の使用量削減

③敷地内の緑化  
Q-3 1 生物環境の保全と創出

外構緑化指数 =  $\frac{\text{中高木の樹冠の水平投影面積} + \text{低木・地被等の植栽面積}}{\text{敷地面積から建物面積(建築面積及び附属面積)を除いた}} \times 100$

建物緑化指数 =  $\frac{\text{屋上緑化面積} + \text{壁面緑化面積}}{\text{建築によって占有された部分の水平投影面積(法定面積)}} \times 100$

スコアシート		実施設計段階		建物全体・共用部							建物全体・共用部・居住・宿泊部分		居住・宿泊部分		全体
配慮項目	独自基準 重点項目	環境配慮設計の概要記入欄			評価点	評価点	重み係数	評価点	評価点	重み係数	評価点	評価点	重み係数	全体	
<b>Q 建築物の環境品質</b>														<b>2.9</b>	
<b>Q1 室内環境</b>														<b>3.2</b>	
<b>1 音環境</b>															
1.1 室内騒音レベル														3.6	
1.2 遮音														3.0	
1 開口部遮音性能														4.6	
2 界壁遮音性能														5.0	
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)														4.0	
4 界床遮音性能(重量衝撃源)														-	
1.3 吸音														3.0	
2 温熱環境														2.6	
2.1 室温制御														3.5	
1 室温														3.0	
2 外皮性能														5.0	
3 ソーン別制御性														3.0	
2.2 湿度制御														3.0	
2.3 空調方式														1.0	
3 光・視環境														3.5	
3.1 昼光利用														3.0	
1 昼光率														3.0	
2 方位別開口														0.60	
3 昼光利用設備														3.0	
3.2 グレア対策														3.0	
1 昼光制御														3.0	
3.3 照度														3.0	
3.4 照明制御														5.0	
4 空気質環境														3.5	
4.1 発生源対策														4.0	
1 化学汚染物質														4.0	
4.2 換気														3.0	
1 換気量														3.0	
2 自然換気性能														3.0	
3 取り入れ外気への配慮														3.0	
4.3 運用管理														3.0	
1 CO <sub>2</sub> の監視														3.0	
2 喫煙の制御														3.0	
<b>Q2 サービス性能</b>														<b>3.0</b>	
<b>1 機能性</b>														<b>2.5</b>	
1.1 機能性・使いやすさ														1.0	
1 広さ・収納性														1.0	
2 高度情報通信設備対応														1.0	
3 バリアフリー計画														1.0	
1.2 心理性・快適性														3.6	
1 広さ感・景観 (天井高)														4.0	
2 リフレッシュスペース														4.0	
3 内装計画														3.0	
1.3 維持管理														3.5	
1 維持管理に配慮した設計														4.0	
2 維持管理用機能の確保														3.0	
<b>2 耐用性・信頼性</b>														<b>3.2</b>	
2.1 耐震・免震・制震・制振														3.0	
1 耐震性(建物のこわれにくさ)														3.0	
2 免震・制震・制振性能														3.0	
2.2 部品・部材の耐用年数														3.7	
1 躯体材料の耐用年数														3.0	
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔														5.0	
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔														5.0	
4 空調換気ダクトの更新必要間隔														3.0	
5 空調・給排水配管の更新必要間隔														4.0	
6 主要設備機器の更新必要間隔														3.0	
2.4 信頼性														3.0	
1 空調・換気設備														3.0	
2 給排水・衛生設備														3.0	
3 電気設備														3.0	
4 機械・配管支持方法														4.0	
5 通信・情報設備														2.0	

<b>3 対応性・更新性</b>				3.4	0.29			-	3.4
3.1 空間のゆとり		②	階高を確保することで将来の用途変更へ考慮 空間の自由さを確保し将来の用途変更へ考慮	4.6	0.31			-	
1 階高のゆとり				5.0	0.60			-	
2 空間の形状・自由さ				4.0	0.40			-	
3.2 荷重のゆとり				3.0	0.31			-	
3.3 設備の更新性				3.0	0.38			-	
1 空調配管の更新性				3.0	0.17			-	
2 給排水管の更新性		3.0	0.17			-			
3 電気配線の更新性		3.0	0.11			-			
4 通信配線の更新性		3.0	0.11			-			
5 設備機器の更新性		3.0	0.22			-			
6 バックアップスペースの確保		3.0	0.22			-			
<b>Q3 室外環境(敷地内)</b>				-	0.30			-	2.5
1 生物環境の保全と創出		独自③		2.0	0.30			-	2.0
2 まちなみ・景観への配慮		独自④		3.0	0.40			-	3.0
3 地域性・アメニティへの配慮				2.5	0.30			-	2.5
3.1 地域性への配慮、快適性の向上		独自④		3.0	0.50			-	
3.2 敷地内温熱環境の向上				2.0	0.50			-	
<b>LR 建築物の環境負荷低減性</b>									3.4
<b>LR1 エネルギー</b>					0.40				3.7
1 建物外皮の熱負荷抑制			断熱性能の高い躯体構成及び建築材を使用	5.0	0.30			-	5.0
2 自然エネルギー利用				3.0	0.20			-	3.0
3 設備システムの高効率化			効率のよい設備機器を導入	3.6	0.30			-	3.6
4 効率的運用				3.0	0.20			-	3.0
集合住宅以外の評価				3.0	1.00			-	
4.1 モニタリング				3.0	0.50			-	
4.2 運用管理体制				3.0	0.50			-	
集合住宅の評価				-	-			-	
4.1 モニタリング				-	-			-	
4.2 運用管理体制				-	-			-	
<b>LR2 資源・マテリアル</b>					0.30				3.4
1 水資源保護				3.4	0.15			-	3.4
1.1 節水			自動水栓に加えて節水型便器を採用	4.0	0.40			-	
1.2 雨水利用・雑排水等の利用				3.0	0.60			-	
2 雨水利用システム導入の有無				3.0	0.67			-	
2 雑排水等利用システム導入の有無				3.0	0.33			-	
2 非再生性資源の使用量削減				3.5	0.63			-	3.5
2.1 材料使用量の削減		② 独自	ハイベースNEO工法、QLデッキ等を採用	4.0	0.07			-	
2.2 既存建築躯体等の継続使用			3.0	0.25			-		
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用			3.0	0.21			-		
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用			3.0	0.21			-		
2.5 持続可能な森林から産出された木材			-	-			-		
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み			独自	LGS工法、ユニット部材の採用	5.0	0.25			-
3 汚染物質含有材料の使用回避				3.3	0.22			-	3.3
3.1 有害物質を含まない材料の使用				3.0	0.32			-	
3.2 フロン・ハロンの回避				3.5	0.68			-	
1 消火剤				-	-			-	
2 発泡剤(断熱材等)			GWP値の低い断熱材の採用	4.0	0.50			-	
3 冷媒				3.0	0.50			-	
<b>LR3 敷地外環境</b>					0.30				3.1
1 地球温暖化への配慮		①	高効率な設備機器の採用によるCO2の削減	3.7	0.33			-	3.7
2 地域環境への配慮				2.3	0.33			-	2.3
2.1 大気汚染防止				3.0	0.25			-	
2.2 温熱環境悪化の改善				2.0	0.50			-	
2.3 地域インフラへの負荷抑制				2.5	0.25			-	
1 雨水排水負荷低減		独自		3.0	0.25			-	
2 汚水処理負荷抑制				3.0	0.25			-	
3 交通負荷抑制		独自		3.0	0.25			-	
4 廃棄物処理負荷抑制				1.0	0.25			-	
3 周辺環境への配慮				3.2	0.33			-	3.2
3.1 騒音・振動・悪臭の防止				3.0	0.40			-	
1 騒音		独自		3.0	1.00			-	
2 振動		独自		-	-			-	
3 悪臭				-	-			-	
3.2 風害、砂塵、日照障害の抑制				3.0	0.40			-	
1 風害の抑制				3.0	0.70			-	
2 砂塵の抑制				-	-			-	
3 日照障害の抑制				3.0	0.30			-	
3.3 光害の抑制				4.4	0.20			-	
1 屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策			周囲への漏れ光に配慮した屋外照明計画	5.0	0.70			-	
2 屋外の建物外壁による反射光(グレア)への対策				3.0	0.30			-	

# 重点項目スコアシート

実施設計段階

■使用評価マニュアル

CASBEE-建築(新築)2016年版+あいち版手引き

小糸技術センター豊田(仮称)新事務所棟建設工事

■評価ソフト:

CASBEE-BD\_NC\_2016(v2.1)\_AICHI

重点項目(配慮項目)		評価点	全体に対する 重み係数	重点項目スコア
<b>① 地球温暖化対策</b>				<b>3.7</b>
LR3-1	地球温暖化への配慮	3.7	0.10	
<b>② 資源の有効活用</b>				<b>3.4</b>
Q2-2	耐震性・信頼性	3.2	0.09	
Q2-3	対応性・更新性	3.4	0.09	
LR2-2	非再生性資源の使用量削減	3.5	0.19	
<b>③ 敷地内の緑化</b>				<b>2.0</b>
Q3-1	生物環境の保全と創出	2.0	0.09	外構緑化:13.05%/建物緑化:0%
<b>④ 地域材の活用</b>				<b>1.0</b>
		(評価ポイント)		
Q3-2 4)	地域性のある素材による良好な景観形成	0.0	-	なし
Q3-3.1 I 2)	地域性のある材料の使用	0.0	-	なし

### ■重点項目スコア算出式

各重点項目スコアは、以下の方法により算出されています。

①地球温暖化への配慮、③敷地内緑化

重点項目スコア=各配慮項目の評価点

②資源の有効活用 (評価点×全体に対する重み)の総和

重点項目スコア= 重みの総和

④地域材の活用

重点項目スコア=評価ポイントの合計+1

## ■ 環境設計の配慮事項

■ 建物名称 小糸技術センター豊田(仮)

計画上の配慮事項	
総合	・断熱性の高い材料の採用と高効率な設備機器の導入、節水型器具の採用等により、環境負荷の低減に配慮した建物である。
Q1 室内環境	・ほぼ全面的にF☆☆☆☆の建材を使用し、室内の良好な空気質環境の確保を図っている。
Q2 サービス性能	・耐用年数の長い内外装材を採用し、建物の耐用性の向上に配慮している。 ・将来の用途変更の可能性等を考慮し、建物の階高、空間の形状・自由さのゆとりを計画している。
Q3 室外環境(敷地内)	-
LR1 エネルギー	・断熱性の高い材料を採用し、建物の熱負荷抑制に配慮している。
LR2 資源・マテリアル	・節水器具を積極的に採用し、水資源の保護に配慮している。 ・OAフロアの採用によって部材の再利用可能性向上を図り、省資源化に配慮している。
LR3 敷地外環境	・高効率な設備機器の採用によりCO2の削減に配慮している。 ・周囲への漏れ光に配慮した屋外照明計画としている。
その他	-